

平成 20 年 10 月 29 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ヒ ュ ー ネ ッ ト  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 檀 上 浜 爾  
 ( J A S D A Q : コ ー ド 番 号 8836 )  
 問 合 せ 先 総 務 部 長 杉 山 顕 士  
 ( T E L : 03-5575-6591 )

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、下記のとおり特別損失が発生いたしますので、その内容をお知らせするとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成 20 年 5 月 14 日に発表いたしました平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の第 2 四半期累計期間および通期の業績予想（連結・個別）を下記の通り修正いたします。

記

1. 特別損失の内容

当社は、物件取得のために契約を締結しておりましたが、将来を想定した収益計画が見込めないと判断し、計画を中止したことによる契約解除損 244 百万円、サブプライムローン問題に端を発した世界経済の悪化、および金融不安による不動産をめぐる資金調達環境の悪化、地価の下落等により、神戸の賃貸不動産等に係る当初の予定収益が見込めなくなったことから固定資産の減損損失 49 百万円、出資金評価損 12 百万円および投資有価証券評価損 5 百万円、合計 311 百万円を特別損失として、平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間において計上いたします。

2. 連結業績予想数値の修正

(1) 第 2 四半期累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日） (単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	2,400	△40	△220	△230
今回修正予想 (B)	1,827	△1,851	△2,036	△2,301
修正額 (B - A)	△573	△1,811	△1,816	△2,071
修 正 率	△23.8%	—	—	—
(ご参考) 平成 20 年 3 月期第 2 四半期実績	12,854	5	△769	△12

(2) 通期累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日） (単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	10,500	690	420	410
今回修正予想 (B)	7,700	△1,890	△2,230	△2,490
修正額 (B - A)	△2,800	△2,580	△2,650	△2,900
修 正 率	△26.6%	—	—	—
(ご参考) 平成 20 年 3 月期通期実績	15,413	△3,217	△4,182	△5,303

### 3. 個別業績予想数値の修正

(1) 第2四半期累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想（A）	2,400	△40	△220	△230
今回修正予想（B）	1,827	△1,850	△2,034	△2,298
修正額（B－A）	△573	△1,810	△1,814	△2,068
修正率	△23.8%	—	—	—
（ご参考） 平成20年3月期第2四半期実績	12,890	150	△548	△557

(2) 通期累計期間（平成20年4月1日～平成21年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	10,500	690	420	410
今回修正予想（B）	7,700	△1,890	△2,230	△2,490
修正額（B－A）	△2,800	△2,580	△2,650	△2,900
修正率	△26.6%	—	—	—
（ご参考） 平成20年3月期通期実績	15,451	△3,076	△3,965	△5,846

### 4. 修正の理由

(1) 第2四半期累計期間

昨年後半より、サブプライムローン問題に端を発した世界経済の悪化、および金融不安による不動産をめぐる資金調達環境の悪化、地価の下落等により、不動産市況は非常に厳しいものとなり、当面回復が望めない状況にあります。このような経営環境の下、売上高につきましては、おおむね当初の計画通り進捗したものの、売却を予定しておりました港区開発物件の立退きが一部づれ込んだこと、および地価の下落に伴い、当初計画していた金額での成約に至らなかったことが計画比減少の要因となりました。利益につきましては、不動産市場の悪化により売値と買付希望額の乖離が起きており、実勢価格に合わせるため物件ごとに個別に精査し、販売用不動産2物件の簿価切下げ額1,729百万円をたな卸評価損として売上原価に計上したこと、および前述の特別損失により311百万円が発生したことが主な減少要因です。

以上により、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、大幅に減少する見込みです。

販売用不動産

（単位：百万円）

	簿価切下げ前	簿価切下げ後	差額
簿価切下げ対象分	5,892	4,163	1,729
簿価切下げ対象外	4,481	4,481	—
合計	10,373	8,644	1,729

平成20年9月末現在

(2) 通期

現在の不動産事業を取巻く市場環境は悪化の一途をたどっており、第2四半期累計期間と同様に10月以降につきましても、不動産市況の低迷、売買取引の停滞が避けられない状況が続くと予想されることにより、売上については、第2四半期において簿価の切下げ等を行ったこともあり、当初予定しておりました金額での売却が見込めないため、通期の業績予想につきまし

ても、前回予想に対して大幅に減収となる見通しです。利益につきましても売上の大幅な減収に伴い、販管費を賄いきれず、減益となる見通しです。

(3) 個別業績予想の修正

個別の業績予想につきましても、上記と同様の理由により修正いたします。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なることがあります。

以 上